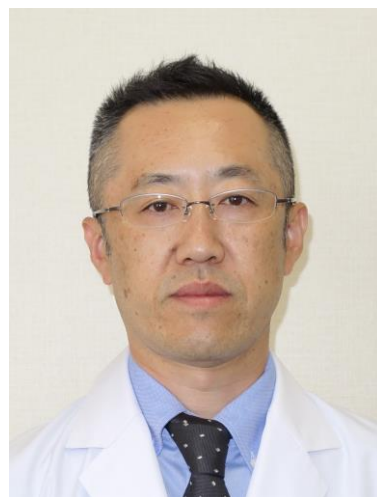


苦しい時こそ楽しむのを忘れないでください

香川大学大学院医学系研究科・教授

角 徳文氏（高校38期）



東京慈恵会医科大学卒業後、同精神医学講座に入局
2003年 フランス国立モンペリエ大学医学部・神経科高度専門医研修
2004年 フランス国立保健医学研究所・研究員
2012年 東京慈恵会医科大学精神医学講座・講師
2014年 香川大学医学部精神神経医学講座・准教授
2022年 現職

■高校時代

中学まではスポーツ選手を夢見て散々運動はしていましたが限界も感じ、高校入学後は芸術にも関心があったので美術部に入部しました。なんとなく美大に行こうかと学外の芸大卒の人に指導を仰いだりしたこともありました。部員はユニークかつ才能にあふれた人達がいって楽しかったのですが、夏を過ぎたころより生来の体を動かしたい衝動が強くなりハンドボール部に入りました。ここでも先輩、同級生、後輩にはいい人たちに恵まれ部活こそしていましたが、立高祭や合唱祭に熱中するような生徒ではなく、パっとしない高校生でした。進路に関しても外国語や歴史などは得意でしたが、数学があまり冴えませんでした。私には「数学ができる人は頭が良い」という偏見？があり、「ここで数学から離れたら一生数学者にコンプレックスをもつ」という訳の分からない理由で理系に進みました。

■大学卒業後



職場で料理を「楽しむ」

大学卒業の際は、親戚に何人かいたこともあり産婦人科も考えましたが、どうしても子宮や卵巣に興味を持てませんでした。精神科に進むことは「家が精神科か、本人が患者か」などと言われましたが、「脳はどのように機能するのか」について興味があり、結局精神医学の道に進み認知症について研究を始めました。しかし、当時認知症は病気という認識に乏しく教授や上司に「年を取ったら誰でもなる」などと言われる始末でした。このような過酷な？状況下でも、脳波のデジタル解析といったこれまたマイナーな研究を行いつつ、認知症の疫学調査といった地道な研究に関わったことは私にとってはとても楽しかった経験です。現在も細々と脳波研究は継続していますが、現在の脳研究はPETやMEGといった画像研究が全盛であり、脳波研究は注目されない分野です。さらに残念ながら満足できる成果も出せていない現状です…でも私自身は楽しんでます。

■立高の皆さんへ

このように私自身が現在も右往左往している最中であり、皆さんに偉そうにアドバイスできる立場ではありません。ただ、私は叩かれても落とされても「へこたれない」「楽しめる」特性はあるかもしれません。私自身は行動する際に「お金」「流行」「名誉」ではなく「自分が本当に好きか」「社会に貢献できるのか」といったことを気にしてきました。もしかしたら、そのおかげで周囲からの評価や雑音を気にせずに（多少は気にもしますが…笑）、好きなことを楽しめてこられたように思います。もちろん金持ちが悪いというわけではなく、社会貢献になるのであれば金儲けもどんどんすればよいと思います。私自身は家族が健康であり、これからも自分の好きなことが続けられれば慎ましやかな生活で満足です。欲を言えば、少しでもいいから世の中に貢献できたら最高だと思っています。